

1 歳児



1歳児 「自分で」「もう一回」という思いを膨らませて

発達の特徴

この時期の子どもは、歩き始め、手を使い、言葉を話すようになります。つかまらずに歩けるようになり、押したり、投げたりなどの運動機能も発達します。手で食べ物を食べたり、生活で使用する皿や茶碗、掃除機などの日用雑貨、玩具などを自由に触って遊びます。つまむ、めくる、通す、はずす、なぐりがきをする、転がす、スプーンを使う、コップを持つなど動きが豊かになってきます。

大人の言うことが分かるようになり、自分から呼び掛けたり、片言を盛んに使ったり、指差しや身振りで示そうとしたりします。大人に伝えたいという欲求が高まってきて1歳後半には二語文も話し始めます。身近なものを他のもので見立てるなど象徴機能の発達も、言葉を習得していくことと大きな関わりがあります。

また、「〇〇のつもり」で遊んだり生活の再現遊びをしたり、見立て・つもりの世界が広がることで、大人や友達と共有して楽しめるようにもなります。

自分の思うように行動できるようになり、大人に受け入れてもらうことによって自発性、探索意欲を高めていきますが、まだまだ大人の援助や見守りを必要とする「自立への過程」の時期です。

大切にしたい保育の課題

- 子どもの生活の安定を図りながら、自分でやろうとする気持ちを大切に、さりげなく援助していくことが大切です。うまくいったときには認めて、できた喜びを共有していくことで、自分ですることの楽しさが積み重なり、次第に身の回りのことも自分でできるようになっていきます。
- 歩行の確立により探索活動が盛んになるので、十分できるように興味を誘う環境の準備、安全への配慮の下での遊具や玩具、生活用具など子どもにとって魅力的な環境の工夫が求められます。保育者や友達のようにやってみたいという模倣も出てくるので、保育者が一緒にいることの安心感を基盤にして、探索活動や一人遊びを楽しむことができるようにすることが大切です。
- 言葉の発達はめざましいのですが、気持ちまで表現することはまだ難しい時期です。個人差も大きいので聞いた言葉を理解していても、自分から言葉で表現することが少ない子どももいます。子どもが興味をもち楽しんでいること、悲しい思いや悔しい思いなど、子どもの気持ちに沿った言葉で保育者が表現し関わることによって、情緒が安定し、言葉の発達が促されていきます。

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために —発達をふまえた関わり方—

周りの世界との出会いを豊かに

歩行の確立とともに手の操作も巧みになることで、探索活動が盛んになり、行動範囲も広がります。探索活動は好奇心の現れです。大人からは、いたずらのように見えますが、保育者も一緒に楽しむことが大切です。子どもにとって魅力的な環境の工夫と、保育者や友達の真似をすることも楽しめるようにしましょう。



自分でする楽しさを味わえるように

食事や排泄などを自分でしたいという気持ちが膨らみ、手伝ってもらうのを嫌がることもあります。こぼしたり、手づかみであったりしても、自分でやろうとする気持ちを大切に、さり気なく援助していくことが大切です。うまくいったときには、できた喜びを共有していきます。こうして自分でする楽しさを積み重ねていくことで、自分が生活の主人公となっていきます。



自己主張の受け止めを丁寧に

自我が芽生え、自己主張が盛んになってきます。しかし、まだまだ“したい”ことと“できる”ことに差があり、不安定な感情を表出することが多い時期です。

また、この時期は噛んだり、引っかいたりなど、友達とのぶつかり合いも見られます。困った行動と捉えるのではなく、内面に潜む“貸してほしい”“一緒にしたい”“自分で”などの気持ちをしっかり受け止めるようにしましょう。それぞれの気持ちに寄り添い共感しながら、子ども同士の思いや要求をつなげていくことも大切にしましょう。



【クルクル、まんまる、できたよー 前期(低月齢児)】



小麦粉粘土で遊んでいます。
 “自分も”と保育者を真似てちぎったり、丸めたりしようとしてますがなかなかできず、保育者に「一緒にしようか。ほら、クルクルってしてごらん」と関わってもらい、丸めたものを手の平にのせ、嬉しそうなA児。「おにぎり」「ハンバーグ」と見立て、お弁当箱に入れているB児。長く伸びたものを見て「ちょうだい」と保育者にもらい、触ってみるC児。そばでじっと見つめるD児。子どもの楽しみ方はいろいろです。

【子どもの姿の読み取り】

安心できる保育者の存在を支えにし「おや、何かな」と周りのものに自ら手を伸ばし、五感を通して関わっていく時期です。触った感触や触ったことで形が変わる面白さなどを感じていきます。そばにいる保育者に共感してもらい、「もう1回」と思いを膨らませ、繰り返し楽しむ姿が見られます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

保育者が楽しそうにする姿を見て、手を伸ばし始めます。指で押さえたり、手で握ったりした感触や面白さなど、子どもたちは自分の手で触れてみて経験していきます。友達がするのを見て面白さを感じ、その面白さをたっぷり溜め込み、「やってみよう」と自分から遊び始めるまで、時には見守ることも大切です。

【リンゴっていい匂い 後期(高月齢児)】

おやつがリンゴの日。
 保育者は、「これ、何か分かる?」とリンゴをむき始めました。「ほら、リンゴの皮、長くなってきたね」「おいしそうな匂いがするね」と言いながら見せています。
 むぎ終わり、皮をもらったA児は切り分けてもらう間、指で押ししたりつまんだりして触っています。



【子どもの姿の読み取り】

子どもたちの興味や関心はどんどん膨らんでいきます。リンゴを切り始めると甘い匂いが漂い、子ども達は、皮が長くなり赤色から黄色へと変わっていくリンゴに釘付けです。そして、身近で甘い匂いを嗅いだり、指先でつまんだりちぎったりと試しながら触り、甘さや酸っぱさを感じ、リンゴそのものに触れ味わっています。

【このコラムにおける 保育のポイント】

“保育者にむいてもらったリンゴ” “甘くていい匂いがする” など、そのものとの出会いがより豊かで楽しいものとなるようにします。味わうだけではなく、見る・触る・嗅ぐなど子どもが五感を通して触れられるように、子どもの目の前で皮むきをし、「おや、何かな?」「わぁ、ちぎれた」「おいしそう」など、気持ちに共感した言葉を添えていきましょう。

【先生と一緒に、ぴよーん 前期(低月齢児)】



ホールで体操をしている子どもたち。保育者がしているのをじっと見ているA児やB児。最初は保育者の踊る様子を見ていたC児D児も、保育者を真似て手を床についてしゃがんでいます。膝を伸ばし、手を挙げ跳んでいるつもりのE児。それぞれの子どもが保育者を真似ながら体を動かしています。

【子どもの姿の読み取り】

保育者や友達が跳んだり走ったりする様子を見て「自分もやってみよう」と体を動かします。また、個々の気持ちや動きを共有する保育者の温かい言葉掛けにより「もう一回」「もっと」と気持ちが膨らみ、繰り返し遊ぶことで、体もつくられていきます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

周りのものへの興味や関心が広がる時期です。友達や保育者のすることに気持ちを向け、「何だか面白そう」と思って「自分も」「自分が」と遊び始められるように、友達の姿が見えたり、繰り返し遊んだりできる環境をつくるのが大切です。保育者も一緒に遊び、「体を動かすことが楽しい」という嬉しさを共有しましょう。

【お散歩で見つけた 後期(高月齢児)】

いつもの散歩道。前を歩く保育者を見ながら、自分の足でどンドン歩いていくA児。周りに興味をもって見つけたものを指差ししたり、つぶやいたりしながら、ゆっくり歩くB児たち。「〇〇かな?」「〇〇見つけた」という保育者や友達の声に、どこどこ?というように周りを見回したり、探したりしながら散歩を楽しんでいます。



【子どもの姿の読み取り】

足腰がしっかりし、歩行距離も延びてきて、歩くスピードも速くなってきます。寄り道を楽しみながら、そこで見つけたものを指差しで教えてくれたり、友達が見つけたものに気持ちを寄せたりし、ときには友達と発見を共有する姿も見られます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

この時期は、目的地を決めてしっかり歩ききることに主眼をおくより、ウロウロしながらの探索散歩をたっぷり行うのが大切です。散歩のコースを選ぶときには、子どもの目の高さで自然の変化が感じられたり、自分で発見の楽しさを味わえたり、体を存分に動かせたりする場(段差や坂道など)といった視点も大切にしましょう。

【先生の真似っこ 楽しいな 前期(低月齢児)】



子どもたちが好きな遊びをしていたある日。途中入園のA児は手遊びが好きでよく見えています。保育者が♪りんごがころころ〜♪と歌い始めると、笑顔で保育者を真似て手をクルクルと回したり、全身を揺らしたりしています。

【子どもの姿の読み取り】

毎日手遊びをしていく中で、その子どもの好きな言葉やフレーズができ、「先生みたいにやってみたい」という気持ちが芽生え、模倣が見られるようになってきます。保育者の存在を“自分のことを分かってくれる人・楽しいことをしてくれる人”と感じ、「先生が大好き」という思いが積み重なり、憧れの気持ちが育っていきます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

大好きな保育者の歌声は心地よく子どもに響きます。手遊びのテンポや間合いを子どもの動きに合わせ、その子どもの楽しみ方で一緒に楽しんでいきましょう。子どもと保育者二人の世界で楽しむその時は子どもにとって心地よい、魅力あるひと時となり、「もっと」「やってみよう」という気持ちが生まれます。

【お弁当つくろう 後期(高月齢児)】

保育者や友達が弁当をつくり、「はい、どうぞ」「パクパク・・・」とやり取りをしたり、自分で野菜のおもちゃや積木を入れて、お弁当をつくらせています。

A児がジュースを並べたりお弁当をつくらせて遊んでいると、B児が近寄ってきてそのお弁当を持っていこうとしています。A児は、泣いて取られたことを訴えています。少し困った表情のB児です。



【子どもの姿の読み取り】

子どもたちは、大好きな大人や友達のすることを憧れの眼差しで見えています。ごちそうをつくらせて赤ちゃんを寝かせたり、車を運転したり、“あんなふうにしてみたい”という思いが膨らみ、お家の人や保育者がしているようにお弁当づくりや車の運転、お昼寝のトントンなど“～のつもり”になって、毎日の生活場面を再現して遊びます。友達が持っている物が欲しくなり、“けんか”になる場面も出てきます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

日頃憧れている大人の真似をして、“～のつもり”を楽しんでいます。子どものつもりを理解し、その世界で保育者も一緒に楽しむことが大切です。つもりがもちやすいものや、何にでも見立てられるものを用意し、環境を整えましょう。友達が気になり同じ物が欲しくなったりもしますが、“一緒”に楽しさを感じられるよう、保育者が仲立ちとなり遊んでいきましょう。

【触れ合い遊び“もう一回” 前期(低月齢児)】



保育者がA児に「きゅうりができた はたけにできた～」と触れ合い遊び♪きゅうりができた を歌い掛け、体に優しく触れながら遊び始めると、他の子も保育者の周りに集まり、コロリと横になっています。友達がしてもらっている様子を見ながら、自分もしてもらえるのを待っています。

【子どもの姿の読み取り】

いつも一緒に過ごしている保育者の優しい歌い掛けや声を聞き、自ら近付いてきます。ゆったりとした環境や流れの中で、保育者と友達の楽しそうな姿を見ながら、自分もしてもらえるという期待と心地よい触れ合いの中で、信頼関係がつけられていきます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

保育室や担任が変わったり、新入児が入ったりと何かと落ち着かない4、5月は触れ合い遊びや揺さぶり遊びをたっぷりとすることで、保育者との関係がつけられます。保育者と1対1の関係で遊び、体の触れ合いを通して心と心が通い合うようにしましょう。子どもが心と体をリラックスさせて遊べることを意識しましょう。

【先生 見ててね 後期(高月齢児)】

洗濯ばさみ遊びをしています。保育者の周りで一人一人が遊びに向かっています。

厚紙の周りをつづつはさんでいる子どもたち。A児は、いくつか洗濯ばさみを付けられたことを、先生に喜んで見せています。



【子どもの姿の読み取り】

何でも自分でしたくなってきます。大人が手を出すのを「いや」と拒否する姿も出てきます。一人一人に応じて、見守ってもらいながら、自分の力を試みます。また、友達がしているのを見て、「あれ?」「面白そう」と、自分もしたいと心を動かします。指先の操作、力など個々に合った素材選びも大切です。

【このコラムにおける 保育のポイント】

保育者が直接関わっていなくても、そばにいてくれる安心感、見てほしいときに見てくれることを感じて自分で遊びに向かっています。子どもたちの遊んでいる様子を見て寄り添い、共感したり、また困っているときにはさり気なく援助したりし、「ここにいるよ」「見ているよ」と子どもの視線にアイコンタクトで返しながらかんして遊べるようにしましょう。また、保育者や友達の姿が見え、自分もやってみることができる環境づくりをしましょう。

参考資料【1歳児クラスでの環境の工夫（例：牛乳パックの利用）】

人形、エプロン、スカート、かばん、ままごとの道具など、いろいろなイメージで見立てたり、変化させたりできるものを用意することで、遊びを豊かにしていきます。

*牛乳パックをつなげて、布やビニールクロスで覆ったものを使って。



乗り物や一本橋にして遊びます。



絵本を見る時には、椅子にして・・・一人ずつの安心できる場所になります。

*自分で選んで出して、自分で片付けやすいように。



ままごとではテーブルに。



積み重ねてみたり、押して走ったり、座って乗ったり...

“人形のおうち”
「遊びたいな！」の気持ちも引き出します。

*一人一人の箱椅子は、自分の居場所に。

やがて、友達を追い掛けることも楽しくなります。



期／月		1歳児 I期（4月～5月）
期の特徴		信頼できる保育者の存在を支えにし、 安心して生活したり、遊んだりすることを大切にす時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 慣れない環境で泣いて不安な思いを表しているが、スキンシップや抱いてもらうなど一人一人の姿に応じて関わってもらう中で、少しずつ慣れて先生と一緒に好きな玩具や場所を見つけて遊び出すようになる。 周りの子どもが泣いている姿に不安になる姿も見られるが、信頼できる先生を支えにしながら遊びに気持ちを向ける姿もある。 自分の気に入った場所で遊んだり、好きな玩具で遊んだりすることを喜ぶ。 先生と触れ合ったり、あやしてもらったりして安心する。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生活リズムで、食べたり、排泄したり、眠ったりし、園生活に慣れる。 先生がそばにいることに安心し、自分の好きな遊びや玩具を見つけて遊ぶ。 園内や戸外で先生と一緒に探索活動を楽しむ。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> 先生にそばについてもらい、安心して一人一人の睡眠のリズム（一回寝、二回寝）で過ごす。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな食品や調理形態に慣れ、先生に食べさせてもらったり、見守ってもらったりし、手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする。 おむつやパンツを換えてもらい、気持ちよく過ごす。 先生と一緒に手を洗ったり拭いてもらったりして気持ちよさを感じる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 先生と一緒に、肌の触れ合いが心地よかったり、やり取りが楽しかったりする遊びをする。 戸外で、草花や虫など身の回りのものに興味、関心をもち、見たり聞いたり触れたり歩き回ったりし、探索遊びを楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに共感してもらったり、意味付けをしてもらったりし、要求を表情や仕草、喃語、片言などで表そうとする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 先生の歌に体を揺らしたり、一緒に歌ったり、振りを真似たりしようとする。 絵本の読み聞かせを喜ぶ。

<保育のポイント>

- ☆感染症にかかりやすいので家庭と連携を図りながら、事前に予防接種や既往症の把握をし、一人一人の心身の状態や機嫌、食欲などから変化に気付いて早期に対応する。
- ☆一人一人に応じてゆっくりと関わったり、触れ合ったり、優しく語り掛けたりしながら、保育者の関わりが心地よいと感じられるよう情緒の安定を図り、保育者との信頼関係や愛着関係を築いていく。
- ☆クラスの子どもの月齢差を踏まえ、一人一人の子どもの発育、発達状態に合わせて関わったり、少人数で遊べる環境をつくったりして、丁寧に姿を見守り生活や遊びを充実させる。
- 仕草や表情、片言で表わす子どもの気持ちや思いに、「～だね」「～したいね」などと言葉にして丁寧に受け止め、伝わった喜びを感じられるようにする。
- 好奇心から行動範囲が広がり始めるので、安全な環境を用意するとともに、「面白かった」「楽しかった」という気持ちが十分に満たせるように関わり、「もう一回してみたい」と気持ちを膨らませ、意欲的に過ごせるようにする。

<家庭との連携>

- ・1年間のクラスの方針を知らせ、保育の中で大切にしたいことを伝える。
- ・保護者と保育者が一緒に子育てをしていることを確認し合い、送迎時や連絡帳などで園と家庭の様子を伝え合いながら、安心して話せる雰囲気や信頼関係を築いていけるようにする。
- ・感染症にかかることが多い時期なので、体調の変化を見逃さないようにし、体の状態や機嫌、食欲など家庭と連絡し合う。
- ・離乳食から幼児食への移行や睡眠リズムを整えることなどについて、家庭での様子を聞いたり、園での様子を話したりし、家庭と共に丁寧に進める。

期／月		1歳児 Ⅱ期（6月～8月）
期の特徴		安心感を基盤にし、全身をたっぷり使って遊び、「もっと」「もう一回」という思いを育む時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 生活面において、「自分で」という気持ちが芽生え始める。 排尿の間隔が少しずつ長くなっていく。 一回の睡眠でぐっすり眠れるようになり、二回寝のリズムから一回寝のリズムへ移行する。 信頼できる人との関係の中で安心して遊び、表情や仕草、言葉で要求を伝えようとする。 先生がいてくれる安心感の中で探索したり、ものを触ったりして遊ぶ。 友達や年長児の遊ぶ姿に興味をもち、同じようにしてみようとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 「自分でしたい」という気持ちを受け止めてもらい、食事や着替えなどをしようとする。 五感を通して、いろいろな素材や身近な自然などに触れ、気に入ったことや遊びを繰り返し楽しむ。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> シャワーや着替え、水分補給に留意してもらい、気持ちよく過ごす。 手づかみやスプーン、フォークを使ってこぼしながらも自分で食べる。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> パンツで過ごしたり、便器やおまるで排泄したりすることに慣れる。 一定時間眠る。 水をすくったり体にかけてたりして遊び、水の冷たさや心地よさを感じる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友達のすることを真似て、自分もしてみようとする。 好きな玩具や空間（場所）で先生と遊び、「もっと」「もう一回」などを言葉や仕草で伝える。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの面白さを感じ、繰り返し遊ぶ。 水、砂、泥などの可塑性のあるものに、手指や足など全身を使って触れ、感触に親しむ。 夏野菜などを、見たり、採ったり、嗅いだり、味わったりする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 関心のあるものや見つけたものを指差しや仕草、簡単な言葉で表す。 先生と一緒に手遊びや体操をしようとし、手足や体を動かすことを楽しむ。

<保育のポイント>

- ☆一人一人の体調把握や休息と活動のバランス、水分補給、紫外線予防、温度調整や暑さによる食欲減退に留意し、健康に過ごせるようにする。
- ☆「自分で」という気持ちや「いや」に込められた思いを汲み取り、自己主張を受け止め、ゆったりとした関わりの中で、自我を育てていく。
- ☆友達が食事をしたり、排泄したりする姿などを見て、「自分もやってみよう」という気持ちを育み、日々の生活の中で少しずつ見通しがもてるようにする。
- ☆たっぷり遊んで、しっかり食べて、一回の昼寝でぐっすり眠れるような生活のリズムをつくっていく。
- いろいろなものを見たり触ったりつまんだりなどして五感に働き掛けていけるようにする。また、直接経験していく中で、子どもの発見や驚きを受け止めて共感していく。
- 繰り返し遊びを楽しみ、「～したね」「〇〇だね」など子どもの遊びに意味付けたり、子どもの楽しさ、面白さなどに共感したりしながら、遊びの面白さや手応えが感じられるようにしていく。
- ひとり遊びがじっくりできるように、遊ぶ空間をつくったり、玩具の数を揃えたりしておく。

<家庭との連携>

- ・暑さのため、体調を崩しやすい時期なので、園や家庭での様子や体調の変化・体の状況・食欲など健康状態について連絡を取り合い、健康に過ごせるようにする。
- ・「自分で」「いや」などの思いを出す子どもとの生活や、関わっていく大変さを受け止め、自我が育ってきている時期であることを伝えていく。そして、「～したい」「やってみよう」という気持ちを見守ったり、一緒にしたりするなど子どもとの関わりについて共に考えていく。
- ・この時期のひとり遊びは、大人に見守られている安心感から表れてくる姿であることを伝え、子ども自らがものに関わってじっくり遊べるのが大切であることを確認する。

期／月		1歳児 Ⅲ期（9月～12月）
期の特徴		大好きな人との関係の中で自我の芽生えを育む時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・「いや」「自分で」「しない」など自分の思いを相手に通そうとする。 ・好きな食べ物と嫌いな食べ物の嗜好がはっきりしてくる。 ・排尿した感覚が分かるようになり、動作や言葉で知らせるようになる。 ・歩く、上る、走るなど手と足の動きがしっかりして、滑り台や段差のある場所を上り下りする。 ・友達と一緒にいたり、遊んだりすることを喜ぶ。 ・友達と同じものを欲しがったり、強引に入ったりして噛みつきやひっかきが起こりやすい。 ・気に入った絵本や手遊びを「もっと」「もう一回」と繰り返ししてほしいと伝える。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・先生に手伝ってもらいながら、身の回りのことを自分でしてみようとする。 ・先生や友達と一緒にいることを感じながら、体を動かすことを楽しむ。 ・自分の思いを表情や動作、言葉で表し、受け止めてもらう喜びを味わう。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を心待ちにし、先生に声を掛けてもらい、楽しい雰囲気の中で喜んで食事をする。 ・先生に促されて、トイレに行き排泄する。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ズボンや靴の着脱に興味をもち、自分でしようとする。 ・先生や友達と触れ合ったり、じゃれ合ったりして遊ぶことを楽しむ。 ・友達の存在が気になり、同じ玩具が欲しくなったり、友達と一緒にいることを喜んだりする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物や身近なものに興味をもち、見たり触れたりして遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びや真似っこ遊び（※）をして、身近な道具を使うことを楽しむ。 ・自分の思いやしてほしいことを、言葉や身振り、表情で伝えようとする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や音楽のリズムの楽しい雰囲気を感じ、体を動かしたり、先生の真似をしたりする。 ・絵本を見たり、手遊びをしたりする中で、好きなフレーズを真似て楽しむ。

※真似っこ遊びとは…日常生活で大人がしていることの真似をする遊び

<保育のポイント>

- ☆季節の変化や気温差に留意し衣服調整をしたり、十分に休息をとったりして健康に過ごせるようにする。
- ☆見通しや目的をもつことができるようになってくるので、生活の流れを大切にしていって見て分かりやすい環境を整え、生活の主体となって動けるようにしていく。
- ☆「いや」「自分で」など自我が出てくるので、子どもがやろうとする気持ちを十分受け止めながら、少し待ったり、「どっちにする」と選べるようにしたりし、自分でした手応えを感じられるように援助していく。
- 子どもが伝えようとしていることを汲み取りながら聞き「～だね」と思いを言葉にしたり、子どもの気持ちや感情に寄り添って、言葉を丁寧に添えたりして、言葉の発達を促すような関わりをしていく。
- 子どもが自分で選んで取り出せる環境や玩具の数を整えて、遊びを保障することで、じっくりと遊べたり、繰り返し遊べたりできるようにする。

<家庭との連携>

- ・子ども同士のトラブルを否定的に感じないように、子どもの思いや保育者がどう関わったのかを丁寧に伝え、成長に必要な過程のひとつとして捉えてもらうようにする。
- ・子どもが自分でできたという満足感が味わえるように、着脱しやすい衣服や靴を選んだり、見守ったり、一緒にしたり、手助けしたりなど家庭と共に関わり方を考える。

期／月		1歳児 IV期（1月～3月）
期の特徴		見立て・つもりの世界での遊びを楽しみ、人との関わりが広がる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分ですることが嬉しくて保育者に見てもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・先生と一緒に遊ぶことで、つもりをもったり、見立てて遊んだり、友達と同じことをしたりして遊ぶ。 ・追い掛けたり逃げたり走ったりすることを喜び、動きが活発になる。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、してほしいことを言ったり、「貸して」「いいよ」など、やり取りをしたりする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・先生に見守ってもらい、自分でしたことを喜びながら、身の回りのことをしようとする。 ・先生や友達と一緒に遊ぶ中で、やり取りをしたり関わったりして遊ぶことを楽しむ。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に見てもらい、自分からスプーンを使って食べようとする。 ・先生に声を掛けてもらい尿意を伝えたり、トイレで排泄したりする。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・見立てたり、つもりをもって遊んだり、保育者や友達とのやり取りを楽しんだりする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな玩具を、触ったり、つまんだり、はめたりして、指先を使って遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや要求を受け止めてもらった手応えを感じ、動作や表情、言葉で伝えようとする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や音楽のリズムにのって、体を動かしたり、先生の真似をして動いたりする。 ・絵本やお話に出てくる言葉のリズムを喜び、繰り返し見たり聞いたりする。

<保育のポイント>

- ☆自分でしようとする気持ちを大切にしながら援助し、自分でしようとする姿を認めて喜びを共有し、自分でしようとする楽しさを積み重ねていく。
- ☆子どもの伝えたい気持ちを感じ取り、待ったり、つぶやきや仕草に共感したりして、言葉を使うことや表現する喜びが感じられるようにする。
- ☆外気温が低くなる時期であるが、適時外気にふれて遊ぶ機会や全身を動かして遊ぶ機会をつくり、健康な体をつくる。
- ☆感染症が流行する時期であるため、汚物処理や換気など室内の衛生管理や室温に気を付ける。
- 日常生活の中での体験や出来事を保育者も一緒に再現して遊びながら、仕草の真似っこや言葉のやり取りを楽しめるようにする。
- 絵本や紙芝居は、生活経験での内容や繰り返し楽しめるものを選び、発語や模倣遊びを共感し、伝えたい思いを受け止める。
- 「してみたい」という気持ちを引き出せるよう、興味や発達段階に合わせて遊べる環境を工夫したり、保育者も楽しみながら一緒に遊んだりしていく。

<家庭との連携>

- ・感染症が流行する時期であるので、その発症の状況や症状などを知らせ、早期発見、治療に心掛けてもらう。
- ・家庭でも楽しんでもらえるように、園でお気に入りの絵本を紹介したり、家庭でよく見ている絵本を聞いたりする。
- ・安心して進級できるように、保護者の思いを受け止め、一年間の成長を喜び合う。
- ・身の回りのことを少しずつ自分でしようとする姿を喜び合いながら、家庭でも意欲が芽生えるような関わりを一緒に考える。